

書塾の仲間たち

第 235 回

つくば並木書道教室（茨城県つくば市）



●書塾からひとこと●

私は定年を迎えるまで、筑波研究学園都市の高校で教師として勤めていました。勤務校では表彰状や卒業証書の作成などにも携わり、長年学んだ毛筆を活かす場が沢山ありました。定年後、私が学んできた書道を子どもたちに伝えるため、自宅を開放して、今年で九年が経ちました。

教室の運営も軌道にのつていた令和二年三月、新型コロナ感染症による緊急事態宣言が発令され、子どもも大人も日常生活が一変しました。書道教室も継続が危ぶまれる事態となりましたが、そのような環境下でこそ、週一回のお稽古は子どもたちにとって意義があると考え、コロナと共に存していく道を選びました。まず、マスクが不足する中、すぐに子どもたち用のマスクを手作りして配りました。アルコール消毒液が足りなかつた時は、差し入れてくださるお母様もいました。お稽古に参加する際は体調確認をお願いし、教室に来た際の検温と消毒を習慣づけて、練習日を増やしたり、前半と後半の二部制にしたりして三密回避を心掛けました。工夫の結果、ほとんどのお子様方が以前同様にお稽古に参加してくれました。お稽古の時間は毎日、家の中にこもらざるを得ない子どもたちが、書の仲間と顔を合わせ、好きなお稽古に集中できる貴重な時間であり、皆、笑顔を取り組んでいます。

新型コロナに翻弄^{ほんろう}されて早くも三年が経過します。その間、幸いにも教室内でコロナ感染症の発生や、コロナのため退会するお子様はいませんでした。しかし、毎年楽しみにしていました市展や県展の芸術祭が中止となり、子どもたちの活躍の場が失われていることに最も心が痛みます。「技術は簡単に身に付かない。身に付いたものは一生の宝」と子どもたちにも諭しながら、自他共にコロナに負けない運営を心掛けています。

つくば並木書道教室 田上公恵（圭春）
※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

私は小学四年生の時に書道を習い始めました。それまでは字がとても汚く、テレビで見た、半紙いっぱいに力強い字を書く方々にずっと憧れていきました。「私も人の目を引きつけられるような奇麗な字を書きたい！」といふ一心で、友人に紹介された今のお教室に通い始めました。

いざお教室に行くと、初対面の私が先生がとても明るく優しく出迎えてくださったことを今も鮮明に覚えています。頭の中で描いている書き方ができなかつた時も、先生は温かく見守り、丁寧に根気強くご指導してくださいました。そのおかげで、友達や学校の先生方に字を褒めていただくことが多くなりました。「字がすごく奇麗だね」と言っていただけが、書道を続けて良かったと思える理由の第一位です。

書道はただ筆と墨を使って文字を書く作業ではありません。墨の量や姿勢、力の入れ具合、書く人の気持ち次第で字は大きく変化するものだと思います。書道が奥深く上達も難しい中で、今の私があるのは全て先生のおかげだと、心の底から実感しています。

納得のいく字が書けた時は、達成感と嬉しい気持ちでいっぱいです。いつも先生は沢山褒めてくださり、書道はとても面白いものだと感じています。「継続は力なり」。これは私の大好きな言葉です。努力した分だけいつか自分に返ってくる、という言葉を励みに、これからも技術向上を目指して精いっぱい頑張ります。書道を続けられるのは、先生をはじめ、沢山の方々の力があることを忘れず、感謝の気持ちを持ちながら、より一層憧れの字が書けるように努力し続けます。

日々の小さな積み重ねが一番の財産

神奈川県綾瀬市立城山中学校三年

宇留志奈桜 うるしなお

雲海



私と書写書道 第235回

ペンを握れなくなるその日まで書に想いを込めて

東京都江戸川区 鈴木 智朗 すずきともあき

中学 大 一般年	伊能忠敬は、昼は測量、 夜は天体観測という毎日を 重ねて、正確な日本地図を作 り上げた。
現役級	
級	
段	
氏名	
鈴木 智朗	



私は、硬筆を大学時代に始めました。社会人になり、いったんやめいましたが、三十歳の頃に再開して、通算二十年以上が経ちました。大学生の頃は履歴書を奇麗に書きたい、仕事で役立てたいとの思いで始めましたが、再開を決意した時は、「人生において硬筆を極めよう」という目標を立て、改めて強い気持ちを持って始めました。野球を子どもの頃から始めて、学生時代、社会人と長く続いている方のように、自分も何かひとつ、人に教えられるようなことを身に付けたいとも思っていました。硬筆を学び、取り組むほど、とても奥深いことを痛感しました。お手本の字を一画一画しつかり注視すると、これまで分かつたような気になつて、字の特徴を捉えられていなかつたことに気が付きます。

昨今、手書きで文字を書く機会は少なくなっていますが、むしろ書くことの重要性を強く感じます。書く人の想いや気持ちが受け取った人に伝わる手書きは、素晴らしいものであると改めて思います。かけがえのない人や大切な人を想いながら、一字一字に想いを込めて書くことが大事だと思います。

この先、高齢になつても机とペン、テキストがあれば練習できるので、硬筆はこの世を去るときまで長く取り組める良い学問です。人生苦しく辛いことも沢山ありますが、毎日書く練習を続けることは大切な自分の支えになつています。

これからも自分を支えるための修業と思い、ペンを握れなくなるその日まで書き続け、精進します。どこまで成長できるかは自分との戦いだと、気合を入れて想いを込め、一筆入魂の氣概で取り組みます。

今日まで長い間継続してこられたのは、福島光雲先生のご指導があつたからです。先生との出会いに深深く感謝申し上げます。